

令和3年度小菅村地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、全耕地面積（25ha）に占める田の耕地面積（5ha）の割合は20%で、水稻の作付けが少なく、そば等の転作作物が占める割合が高い。

また、農家の高齢化が進んでおり、農家戸数の減少が見られるとともに、不作付地の拡大が進んでいる。こうした中、そばの作付面積の維持が課題となっている。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

村内の約0.8ha（不作付地を含む）の水田について、適地適作を基本として、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

村内は畠中心であるため、水田の利用状況を点検し、担い手や労働力の状況と照らして、地域の実情に応じた畠地化を推進する

4 作物ごとの取組方針等

（1）主食用米

地域の食育等の用途で作付けする予定があり今後も維持する。

（2）備蓄米

（3）非主食用米

（4）麦、大豆、飼料作物

直売向けに製造される味噌の原材料として、大豆の作付面積を維持する。

（5）そば、なたね

地域の実需者との契約に基づき、現行の栽培面積を維持する。

（6）高収益作物

「馬鈴薯」、「マコモタケ」、「こんにゃく」等を振興品目として拡大する。

5 作物ごとの作付予定面積等

作物	前年度作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	令和5年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	0.1	0.1	0.1
備蓄米			
飼料用米			
米粉用米			
新市場開拓用米			
WCS用稻			
加工用米			
麦			
大豆	0.1	0.1	0.1
飼料作物			
・子実用とうもろこし			
そば	0.3	0.3	0.3
なたね			
高収益作物	5.5	5.5	5.5
・野菜	5.5	5.5	5.5
・花き・花木			
・果樹			
・その他の高収益作物			
その他			
畠地化			

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	使途名	目標	目標値	
				前年度（実績）	目標値
				(○年度) (○年度)	(○年度) (○年度)

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の明細

なし